

ざいそう

中欧旅行

谷本 道夫



今年にはモーツァルト生誕 250 年なので音楽好きの室内と 3 月中旬から約 1 週間、駆け足でブダペスト、ウィーン、プラハを巡って来ました。特に印象に残った点を書いて皆さんの参考に供したいと思います。

ハンガリーの首都ブダペストはドナウの真珠と言われているようですが、確かに美しい街で市街を一望に眺められる展望台に立つとドナウ川がまっすぐ悠然と南北に流れ、遠くに目をやると春霞の向こうにハンガリ平原が広がっています。ブダペストは川を挟んで西側の丘陵地帯のブダ地区と東側の平野部のペスト地区とで成り立っています。丘陵の上には教会、王宮などがあり、対岸には世界で 2 番目に大きい堂々とした国会議事堂があります。ドナウ川は水量は豊富でしたが美しき青きドナウではなく茶色でした。王宮のほぼ真下から対岸に渡る重厚感がある橋はくさり橋（写真—1、写真—2）と呼ばれ、この橋が最初に架けられたのは 1849 年。細長い鉄板を 13 枚束ね両端をボルトで締めると共にそれを繋げて鎖にし、吊り橋のロープのように渡し、橋桁を吊っています。当時はまだ丈夫なロー

プが無かったのでしょう。隣の橋はあのエッフェルの設計とか。何となくその時代を感じます。

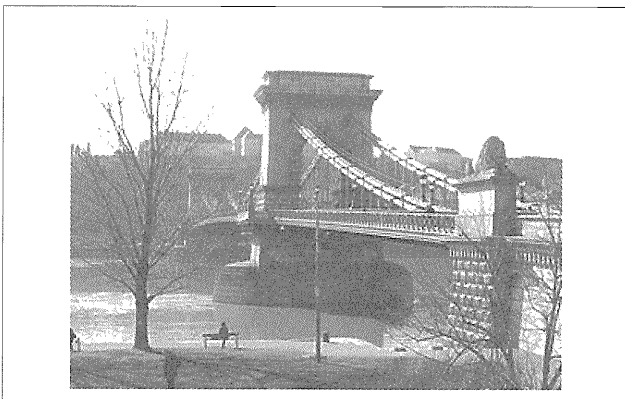
市街の道路は碁盤の目状に整然とし、建物は皆 4 階建てで外観、色調が揃っています。周囲との景観を大事にしているのが良くわかり、ここは矢張りヨーロッパだなと感じます。写真を撮りたくなる建造物が沢山あります。ブダペストは温泉が有名で数か所あります。水着が無い場合はエプロン式前掛けを貸してくれるとの事で話の種と思い行って見ましたが、小生が行った所は水着着用のみで水着を 10 ユーロで買う羽目に。

ウィーンはブダペストから列車で約 3 時間、途中まだ緑が無いのが残念でしたがこれがハンガリ平原かと思感。ウィーンでは中心部のシュテファン寺院の塔にエレベータで上がりましたが、エレベータドアの外に出るといきなりそこは塔の外に張り出した金網のテラスで下が見え足がすくみました。それにしてもヨーロッパの教会を見ていつも思うのはクレーンの無い時代によくあの尖塔を建てたものということです。

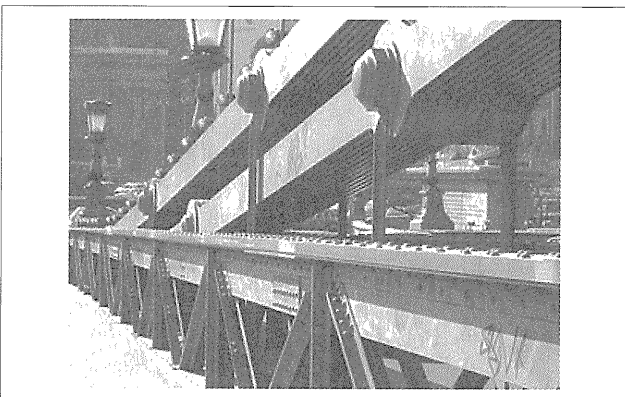
ハプスブルグ家の夏の離宮であるシェーンブルン宮殿では、壁の絵の中の立った人物のつま先が、見る人の動きにつれてその方向に動くのがあり、一体どうなっているのでしょうか。

ウィーンから途中一面の雪景色のところを越えて着いたチェコのプラハは寒かった。ウィーンでパトロンが死んだあと不遇だったモーツァルトを受け入れたのがプラハとか。丘の上の教会と王宮の様子や真ん中をモルダウ河が流れている感じはブダペストに似ています。プラハは惑星が楕円軌道を描くことを発見したケプラーが活動した所ですが旧市街の広場には天文時計と言われる仕掛け時計があります。これは文字盤の横に 4 人の人形が居てその一つは骸骨人形で紐を引くと鐘が鳴り、他の人形も首を左右に振り、文字盤の上の窓が開いて聖人が顔を出すという仕掛け時計です。大勢の観光客が見上げて賑わっています。文字盤の表示は複雑で意味不明。この天文時計のある建物で今年のカフカ賞が村上春樹さんに贈られるそうです。戦争の被害が無かったので旧市街には随所に写真を撮りたくなる建物や石畳があります。「アマデウス」の撮影場面はプラハですが、納得しました。

今回は 3 つの都市とも花には早かったが、日本に帰ると丁度桜、菜の花、水仙など色とりどりの花が咲き、日本は自然が美しいと再認識した次第です。



写真—1 ドナウ川に架かるくさり橋



写真—2 くさり橋の根元部分